

## 計測器校正の勘どころ

表記編(第3回)・数値の表記法

アンリツカスタマーサポート株式会社  
計測テクニカルセンター  
山崎 俊雄

## 《はじめに》

前回は国際単位系(SI)における単位記号と組立単位記号の表記方法を説明いたしました。さて、今回は数値の表記法について簡単にご説明したいと思います。「数値」は日常生活においても頻繁に使用するので、表記法の「国際的な規則」を頭の中に入れておくと何かと役に立ちます。身に着けて応用していただけると幸いです。

## 1. 数値の表し方

ここでは、数値の表し方について、基本的な原則を2つほどご紹介いたします。

- ① 小数点の右側および左側の何れについても、3桁おきにスペースを入れることが望ましい。ただし、4桁の数字はスペースを省略することができる。3桁の分離記号としてコンマ(,)は使用すべきではない。1未満の小数は1の位のゼロを省略しない。

例: 3桁おきのスペース ○ 12 345.678 m  
分離記号 × 12,345.678 m  
1未満の小数 ○ 0.123 456 m  
× .123 456 m

- ② 数値がどの単位に属しているか、またはどの数学的演算をどの量に適用するのか明確にしなければならぬ。

例: ○ 35 cm ~ 48 cm  
× 35 ~ 48 cm  
○ 100 g ± 2 g  
× 100 ± 2 g

## 2. 小数点と3桁の区切り

①の3桁の区切りのコンマ(,)は、小数点以下が表示されない通貨の表示などで見られますが、技術文書においてもコンマ(,)の使用例が散見されています。

しかし、欧州では伝統的な表記法において、小数点をピリオド(.)、3桁の区切りをコンマ(,)とすると、およびその逆である表記法が混在し、これが国境を越えた取引の広がりにも支障を来すようになりました。

ちなみに、フランスは小数点をコンマ(,)、3桁の区切りをスペースとしていました。現在でも小数点をコンマ(,)で表す場合があり、国際的な取引では注意を要します。技術文書の場合、3桁の区切りとしてのコンマ(,)の使用はできるだけ避けるのが賢明でしょう。

また①の後半に記載の「4桁の数値」ですが、一般的に「西暦」の表記にはスペースを入れません。

例: ○ 2015年  
× 2015年

## 3. プラスマイナス(±)の表し方

②の事例も、未だに技術文書でしばしば見られる誤った記述です。許容範囲を表すために、100 ± 2 gなどと記述してしまうことがあります。正しくはそれぞれの数値に単位を付けて100 g ± 2 gと記述しなければなりません。どうしても100 ± 2と書きたい場合には以下のように括弧をつけて記述します。

(100 ± 2) g

## 4. 単位記号と数値の記述のまとめ

ここまで3回に渡り、国際文書に見られる原則を中心に、単位記号と数値の表記法について解説をいたしました。実際には様々な科学技術、産業分野で多くの計量単位が用いられており、それらに対する適切な表記法を定めるための論議が展開されています。

異なる技術分野により表記法の細かい規則が定められている場合があります。大原則としては、今回の3回シリーズの内容を押さえておく一方で、個別の科学技術、産業分野で適用されている統一した表記法については、確実に調べておくようにしてください。

## チェック!

数値の表記法は国や地域によりばらつきがあります。小数点や3桁ごとの区切りについては、国際文書で推奨される表記法があります。3桁ごとの区切りとしてのコンマ(,)は使用しない方向で統一化されています。